

呼吸器領域の POCUS : その問題点と将来展望

小林 英夫

抄 録

救急領域に端を発した Point-of-Care 超音波 (POCUS) は本邦でも広く受け入れられつつある。しかし、以前から蓄積されていた呼吸器超音波学とは別途に POCUS が登場したことから異なる体系化がなされ、両者の長所を複合的・共有的に活用できていない事象も散見されている。本稿では現状と将来的に解決すべき呼吸器的問題点を総括したい。

Point-of-care ultrasound in chest medicine: the present and future

Hideo KOBAYASHI

Abstract

The concept of point-of-care ultrasound (POCUS) is spreading worldwide, including Japan. However, there are several problems with chest POCUS. The current problems and future position of chest POCUS are discussed.

Keywords

chest, point-of-care ultrasound

1. はじめに

Point-of-Care 超音波 (POCUS) が救急領域を端緒として国際的に普及し、さらに在宅医療や日常診療などの領域にも拡がりを見せている。超音波診断にはリアルタイム観察をはじめとする多くの長所があることは周知であり、そして POCUS がこれまでと別途の視点から超音波普及に寄与していくことに著者は大きな期待感を持っている。呼吸器領域 POCUS はこれまでの本邦呼吸器超音波学に存在しなかったアイデアに満ちている一方で、呼吸器内科医である筆者にとっては未解決と指摘せざるを得ない事象も存在している。以下は筆者の私見であり、明確に証明されていない記述を含むことをご了承いただきたい。

2. 呼吸器 POCUS とは何か?

Point of care (POC) とは医療従事者が直接その現場で行う手技で、検査、診断などで使用されるものと記載されている。POC として超音波診断を扱えば POCUS なのかというと、現状はそのような捉

え方はされていない。本邦の呼吸器超音波は 1950 年代に開始され、1970 年代後半には国内呼吸器領域で多くの臨床研究がなされた経緯が存在する。その当時は呼吸器超音波検査を担当できる検査士が稀少であったので、呼吸器科医師が外来や病棟で直接検査を実施しており、当時の実態はすでに POCUS であった。現在も超音波検査士業務の主体は心臓や腹部にあるので、呼吸器領域は一貫して医師による POCUS が継続している。

呼吸器 POCUS とはどのような範疇・病態を含む分野なのだろうか、これは教育カリキュラムとも共通する重要項目であろう。字句通りに医師が自身で超音波検査を行うという枠組みだけで捉えるのか、それ以外のなんらかの区分を意識するのか、十分な共通認識が本邦で形成できているとは評価しがたい。POC 超音波研究会では、主に「急性期診療やプライマリケアでの超音波検査を主体とした臨床応用および研究」の場、とその設立趣旨を述べている¹⁾。また、超音波専門家が取り組んでいる検査内容と、非専門医・一般医が行う検査内容に同一化した基準を設定することは POCUS の普及を阻む恐れがある

防衛医科大学校呼吸器内科

Department of Respiratory Medicine, National Defense Medical College, 3-2 Namiki, Tokorozawa, Saitama 359-8513, Japan

Received on June 27, 2018; Accepted on July 24, 2018 J-STAGE. Advanced published. date: September 10, 2018